

中古苑生 編

中国で成功した 日本人

—30人の奮闘物語



外文出版社



中国で成功した日本人

——30人の奮闘物語

中古苑生 編

外 文 出 版 社

北 京

ホームページ:

[Http://www.flp.com.cn](http://www.flp.com.cn)

アドレス:

info@flp.com.cn

sales@flp.com.cn

ISBN 978-7-119-05166-6

©2007 中国 北京 外文出版社

外文出版社出版

中国北京百万庄大街24号

〒100037

中国国際図書貿易総公司発行

中国北京車公庄西路35号

〒100044

中華人民共和国にて印刷

まえがき

日本で働く中国人の姿は眼にすることができるが、近年増えている中国で働く日本人の姿は見えにくい。外国で仕事をするのは、自国の文化を背負って全身で通訳するように大変なことだ。その中国で働く日本人の体験を通して、激しく変わる中国の様々な分野を少しでも身近に感じ取りたいと願ひ、ここ数年中国を訪れてお話をうかがった。

中国旅行をきっかけに留学して、日本でのOL生活に限界を感じて、荒れる中学校の教師生活に疲れて、人手不足で工場が立ち行かなくなつて、帰任を命じられたが中国で仕事を続けたくなつて……、とキツカケはさまざまだが、共通するのは個性豊かでチャレンジ精神に富み、苦勞を笑い飛ばす樂天的な性格の三十人の日本人。中国へ来るとみな明るい性格に変わつてしまふのだろうか？生き生きと仕事をしている人を探して人から人へと紹介されたのだが、結果的には大中小の企業から派遣された人は少なく、自分の意志で中国にやつてきた人が多かった。中国と相性がよく、中国が気に入る、中国に嵌まつた人と言えるように思う。

昇り竜の勢いで発展する中国社会はパワフルで活氣にあふれている。誠実にこつこつと仕事をするのが日本人の長所であり日本社会を支える基盤だが、そのまじめさや細かすぎるところが、時に社会を息苦しくもさせる。失敗が許されないのが日本社会なら、やつて代めな

ら別のやりかたに切り替え再チャレンジ！、といったおおらかでこだわらないのが中国流。自己主張を控えるのが日本なら、開放的に自分をどんどんアピールしていくのが中国。中国で働く日本人を惹きつける中国の魅力の一つは、この辺にあるのかも知れない。中国で成功した日本人は一樣に、自分を受け入れてくれた中国社会の寛容さに感謝している。

今年は日中国交回復三十五周年。だが、対照的なほど性格が異なる二つの国は、お互いを理解しあうことが難しい。時間をかけてじっくり丁寧につき合うことが必要だ。「中国で成功する」とは、大発展したり大きな利益を上げることだけでなく、あきらめずじっくり腰をすえ、がんばり続けること自体が成功といえるのだと思う。

誰もが、もうこれでお仕舞い、日本へ撤退か？という難局に立たされたり、引くに引けない修羅場を乗り越え、三年、五年、十五年と歩み続けてきた。上海で部品工場を営む東さんは、悪戦苦闘十年の末、絶対絶命のピンチに中国の仲間から日本ではありえない深い助けをもらって生き延び、中国人の信頼がいかに深いものかを初めて知ったという。

どの方もよき中国人協力者を得とともに苦勞しながら仕事を進めている。あるときはぶつかり合い、あるときは助けられ、いつしよに仕事を続ける中で信頼関係を築いてきた。国と国が理解しあうのは難しいが、苦勞をとにした個人同士が信頼関係を作ることが第一歩ではないか。

ここに登場していただいた三十人の方々のそれぞれの生き様や奮闘物語を通して、多面的な中国像の一部でも伝えることが出来たらと願う。また同時に中国の方々の日本や日本人理解の一助になればとも願っている。

目次

まえがき

一章 チャレンジする起業家——男性篇

- | | |
|------------------|------------|
| 一・ラベル印刷会社社長 | 越智博通さん／2 |
| 二・機械部品メーカー社長 | 東久継さん／13 |
| 三・マンガ・アニメ製作会社董事長 | 松谷孝征さん／26 |
| 四・引越し会社社長 | 柳田洋さん／38 |
| 五・広島お好み焼き屋老板 | 地主武文さん／47 |
| 六・環境問題研究所社長 | 大野木昇司さん／57 |
| 七・パソコンセンター社長 | 須藤健さん／68 |
| 八・桂林・興坪の旅館主人 | 林克之さん／74 |

二章 チャレンジする起業家―女性篇

- 一. シュークリーム会社社長 吉田綾子さん／86
- 二. 不動産会社社長 丘野智子さん／93
- 三. 漢方化粧品会社社長 宮崎領子さん／106
- 四. 藍染め博物館代表 久保マサさん／117
- 五. ダンスシューズ・メーカー社長 安田玲美さん／125
- 六. ショット・バー・オーナー 大内さおりさん／132
- 七. 虎跳峡カフェ経営 中元直子さん／141

三章 多彩なスペシャリスト

- 一. 画家 水野竜生さん／152
- 二. 弁護士 石本茂彦さん／163
- 三. 視覚障害者日本語学校理事長 青木陽子さん／169
- 四. 京劇俳優 石山雄太さん／182
- 五. 建築家 迫慶一郎さん／192

六・日本語教師

七・医師

八・フォトグラファー

成田幸恵さん／202

山下明子さん／213

海原修平さん／221

四章 組織を率いるリーダー

一・化粧品会社社長

二・建築会社社長

三・書店・プラン絵本館代表

四・月刊誌編集長

五・人材会社幹部

六・日本人学校事務局長

七・経済団体事務局長

高野幸洋さん／232

高橋千秋さん／241

石川郁子さん／251

大河原敦子さん／259

中山リカさん・片田江ふみさん／270

片山泰郎さん／280

五十嵐克也さん／288

あとがき

一章 チャレンジする起業家―男性篇

ラベル印刷会社社長

越智博通さん〈陸通印刷有限公司董事長〉



故宮を円心に何重もの環状道路が同心円を描きながら郊外に向かって伸びる北京。まだ林や空き地が残る五環道路沿いの一面に、明るい空色の工場があった。看板には北京陸通印刷会社の社名と「不干膠」の文字。乾かない糊、とは粘着、つまり粘着紙のラベル印刷会社である。

ラベルは部品！

作業服がキリッと決まった越智博通社長に案内され、さっそく工場を見学。広さは体育館ほど、細長い印刷機が十五、六台並ぶ。大型輪転機が回る普通の印刷工場とは様子が違う。「これが粘着テープのロール紙。ラベルと台紙が二重になっている。これは日本製の高速ロータリー印刷機。これ入れてから仕事が速い、速い！でも一台二五〇〇万円もしてね（笑）。ロール紙をセットしてスタートさせると、印刷しインクを定着させ抜き（切れ目）を入れて出てくる……」

見覚えのある化粧品や食品、薬品などのラベル、身近な電気製品を開ければ必ず何枚も目に入る小さなラベルたちは、こうして印刷されていたのだ。てきぱきと働く十数人の労働者、女性検品係りのようだ。

「僕はラベルは部品の一部だと考えている。何万個もある製品に一枚ずつ全部貼られる。部

品だから品質チェックが厳しい。印刷されたロールは自動ラベリングマシンにかけて一枚ずつ製品に貼るんだけど、不良品があるとマシンがストップしてしまう。実は今回日本の大手電気メーカーさんに呼ばれてお叱りを受けてきたばかり（笑）。ごらんなさい、色ムラや抜きズレがあるでしょう。なんでこんな単純ミスを出すのかなあ？ やっぱり課題は品質管理だね。もちろんお客さんには刷りなおして届けるけど、社内では担当者で罰金（笑）。金額が問題なのではなく、仕事に対する自覚を高めてもらわなきゃ！

ラベルは部品だから一枚何分（一分〇・一三円）何角（一角〇一・三円）の世界でしょう。一万枚刷つても売り上げは少ない。だから顧客をたくさん集めて多種類刷らなきゃ。現在、顧客は日系企業が六割、中国企業四割。日本の一流電気メーカー、化粧品、医薬品、食品、陶磁器メーカーから中国の医薬品、食品メーカーまで数百社にのぼる。ラベルは中国国内向け、日本輸出向けの両方で毎月千数百種は刷っていますよ。まあ、顧客が多く分散しているのも、もしどこか倒産しても被害は小さくて済む。うちは絶対にこけない自信がありますよ！

中国ラベル印刷の生みの親！

「ぼくはすべて成り行きでやってきた。中国が大好きとか日中友好とかそういうのは何も



北京本社正門前で



北京工場の最新印刷機械の前で

写真撮影 佐渡多真子

なかった。タラタラやってきたら今の状態になった」と笑う社長。経営に対する自信が言わせる言葉だろうが、のっけから笑顔で不良品の話を切り出し、どこか仕事を楽しんでいる余裕を感じさせるのはなぜだろう。その謎は社長の経歴を伺って解けた。

そもそも大学で電気工学を専攻、卒業後は規模は小さくとも技術は超一流の電子計測器会社に就職。一九七五年文化大革命終了直後に初めて上海電子展に参加、中国と縁を結ぶきっかけとなった。二年後に会社が傾きかけた（後に買収され今は上場企業）のを契機に退職。貿易が面白くなっていたので、まったくジャンルが異なるラベル印刷機械会社の海外営業部に転職した。

「一九八〇年から日本と中国のトンボ返りをくりかえし、八三年からは北京のホテルに常駐。当時中国にはまだラベル印刷がなかったので、中国全土を回って、日本の印刷機と粘着紙を買いなさいと売り込んだ。行かなかったのは寧夏、内蒙古、チベットくらいですね。八五年には北京事務所開設、所長就任。いつのまにかラベル印刷がブームになり全国に普及、ほとんど全省が次々に印刷機と原紙を買ってくれた。まあ、私の中国ビジネスは中国のラベル印刷の歴史と重なりますね（笑い）」

全国に通じる印刷会社を

「その後会社の帰任命令が出て日本に戻ったけれど、サラリーマンにあきてしまい翌年廃業。ぶらぶらしていたら昔の友人から誘いを受け、唐山に合弁で印刷会社を作った。でもその会社はまもなく倒産。

合弁の失敗に学んで、一九九四年独立資本で現在の陸通印刷をつくった。社名は大陸に根を下ろし、自分の名前とかけて全国に通じる会社にしよという意味(笑)。中国全土に印刷機を売りラベル印刷の種を蒔いたので、今度は自分が川下に降りて印刷屋になればやっつけけると思った。中国では外資企業は推薦、許可、制限、禁止の四業種に分けられ、印刷は制限業種。まあ、政治的な印刷物をばんばん刷られては困るということでしょう(笑)。

登記までに厄介な手続きがいっぱいあって、正式に会社できたのは一年後。小さいけれど九五年六月には工場が完成、機械も入った。ところがそれから一年半ずつと赤字！自らトップセールスで走り回ったのに、注文が全然とれない！毎月給料と家賃が出ていくばかりで懐の金は底を尽き、もはやここまでと思った矢先、突然日系企業からごそごそと注文が入ってきた！それからはどんどん売り上げが伸びて資金繰りができるようになり、操業四年目で償却を終え、黒字に転じた。

二〇〇〇年十二月、これでやっていけると確信、工場を今の場所に移した。規模は以前の

四倍。現在年商二億円。社員七十名、日本人は自分以外に四人、日系企業からの転職者と現地採用の留学生です。うちは董事長以下副社長、副総経理、技術、営業、総務、生産、購買、財務部など組織がきちんとできている。技術課長はもと国营企業の四十代男性で、真面目で優秀！なんでも任せられる。創業十年で経営の基礎はしっかり固まった。もう北京で何か問題が起きてもしっかり対処していきますよ。

これからは社員にできるだけ給料をたくさん払って、みんなに組織の長をめざしてがんばってもらいたい。部長のポストはまだいくつも開けて待っているんだから（笑）。それから市場をもっと拡大したい。この業種は機械一台買えばすぐ創業できる。品質の悪い紙を使って安い単価で引き受ける競争相手がいっぱいいてね（笑）。でもうちは品質を要求するし、しっかりした顧客とやっていきますよ」

夢は全国に工場を！

「実は昨年、上海到北京の四倍規模の工場を作ったんです。ところが一年すぎてまだ仕事が少ない。四苦八苦している。今年は僕の仕事を六割がた上海に移して巻き返そうと思っている。上海には生産工場がいっぱいあるんだから、きちんとセールスすれば絶対注文が取れる自信がある。」